

第24回 SSOR ルポ

第24回目に当たる今年のSSORは、8月27日から30日までの4日間にわたり、富士山の麓・富士緑の休暇村において開催された。今回のSSORは、100名の参加者が全国各地から集い、盛大なものとなった。

第1日目は、午後3時から受付が開始された。受付時は台風の接近にもない、暴風雨に見舞われ中央線不通という事態にもかかわらず、参加予定者が顔を見せていた。また、さっそく各々の部屋では、旧交を暖める場面がみられた。夕食後、「**理工工学のすすめ—マーコビッツモデル再訪**」と題して今野浩先生（東京工業大学）の特別講演が行なわれた。講演では、理工系学生の金融関係への就職が近年増えていることについて触れられ、ファイナンスといった分野がいかにORと関係の深い分野なのかについて述べられ、非常に興味深かった。参加者も“嵐を呼ぶ男”今野先生のお話に喰いいるように聞き入っていた。その後、飲み会が催され、旅の疲れも見せず深夜まで賑わっていた。

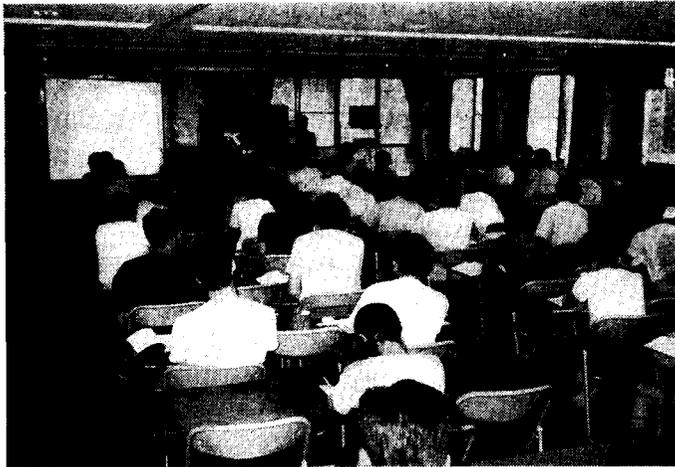
第2日目は、台風一過で真夏の太陽が戻ってきた。この日は、一般発表のみで、午前中は金融に関連したORについての発表が2件と数理計画法に関する発表が3件あった。昼食後は、ネットワーク問題を扱った発表が6件あった。初日ということもあってか、多くの参加者が発表会場に集まり議論を交わしていた。発表終了後は、

勉強の後の気晴らし(?)といった意味で、親睦を兼ねたソフトボール大会が行なわれた。大会では、年齢別でチーム分けがされ、森戸先生をキャプテンとする“お年寄りチーム(1塁まで走れないチーム)”が大方の予想に反して勝利をおさめた。その後、夕食を兼ねた懇親会があり、自己紹介などが行なわれた。本年は参加人数もさることながら、参加大学・企業が例年より多かったが、これは、幹事である早稲田大学の方々の努力の賜であろう。この日はそのまま、真夜中まで飲み会が行なわれたことはいうまでもない。

第3日目は朝から好天に恵まれ、富士山の登山に行く人や富士五湖めぐりにゆく人などが多く、セッションの参加者は少し減った。午前の発表は、水野眞治先生（東京工業大学）が「**内点法あれこれ**」と題して、また土谷隆先生（統計数理研究所）が「**退化した線形計画問題とアフィンスケーリング法**」についてそれぞれ講演された。その後、一般発表となり線形計画に関する発表が2件あった。また生産管理に関する発表が8件昼食をはさんで行なわれた。夕食の後、「**集積回路の生産工程を待行列網で解析する**」と題して、米田清氏と朝倉重顕氏（朝東芝）の特別講演が和やかなムードで行なわれた。講演では、企業ならではの話や話が聞け、学生にとっては非常にためになったと思う。また話の内容とは裏腹に、

講演者のたつての希望から、お酒を飲みながらの講演となったこともSSORならではのことである。引続き、恒例となったキャンプファイアが宿の近くの運動場で行なわれた。ここでは、いくつかの大学の有志による隠し芸が披露され大いに場を盛り上げていた。その後、肝試しなる企画が出され、世代を越えた多くの参加者があった。また最後の夜ということで、飲み会や麻雀、隠し芸大会など、それぞれ趣向を凝らした部屋や論議に花が咲いている部屋もみられた。

最終日の午前中は、信頼性やスケジューリング、待ち行列に関する一般発表が5件あった。その後、自由解散となり来年の再

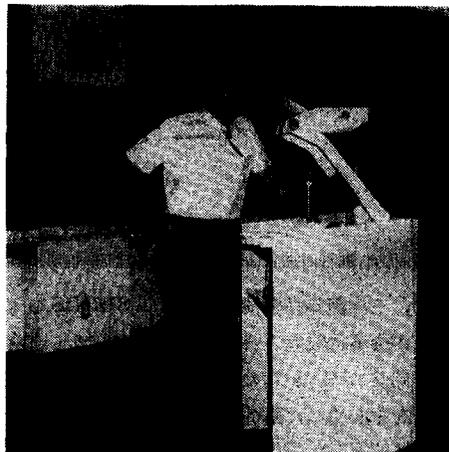


発表会場

会を誓いながら、宿をあとにしている人が多かった。

今回のSSORでは、企業の若手の研究者の発表が多かったように思われる。これは、学生にとって現場を知るという意味で有意義なことであり、学生と企業との溝を浅くするためには大事なことではなかろうか。今後さらに多くの企業の方の参加を期待したいと思う。また発表に関しては、OR学会の発表と異なり伸び伸びとしたものが多かった。これは、SSORが若手主導の集まりであることや、格式張らないくつろいだ雰囲気で行なわれることからきていると思われる。反面、SSORが、大いに学び、大いに遊ぶという2面性を兼ね合わせていることから、遊びに夢中になり過ぎ、聞きのがした講演もいくつかあったのではなかろうか。各自の良識に依存することではあるが、一考を促したいところである。

最後にこの場を借りて、今回のSSORの幹事役である早稲田大学の春日井博先生・森戸晋先生および両研究室の学生の方々に参加者を代表して感謝の意を表したい



と思う。なお次回のSSORは、名古屋地区で開催される予定である。

(猿渡康文 東京理科大学)

統計解析プログラム講座 3

最新刊

実験データの解析(1)

芳賀敏郎・橋本茂司著

A5判・箱入・定価2,600円(本体2,524円・税76円)〒310円

本講座はもともと統計手法の理論を紹介するものではなく、統計手法の上手な活用方法とそれを実現するためのプログラミングを紹介するのが目的である。この第3巻は、多元配置のデータ解析とそのプログラムに主眼を置いてある。(近刊予定の第4巻は、直交表を利用した実験計画のデータ解析とそのプログラムを紹介する予定である。) 【主要目次】 1. 1元配置データの解析 2. 2元配置データの解析 3. 多元配置データの解析(1) 4. 多元配置データの解析(2) (平方和の分解/枝分れ実験/分割実験) 5. 一対比較データの解析(1) (ブラッドレーの方法/サーストンの方法) 6. 一対比較データの解析(2) (シェッフェの方法の基本型他) 7. グラフ表示 (1元配置データのグラフ表示他)

統計解析プログラム講座 1

統計解析プログラムの基礎

芳賀・橋本著 A5判・定価2,266円(本体2,200円)〒310

初歩の四則演算に始まり、確率分布、検定、乱数から異常値の処理やロバスト推定にまで及ぶ、統計解析プログラムの入門書。FORTRANを主にマイコンのためのBASICのプログラムを掲載。

統計解析プログラム講座 2

回帰分析と主成分分析

芳賀・橋本著 A5判・定価2,266円(本体2,200円)〒310

本巻は多変量解析を扱う。回帰における変数選択や異常値の検出などに最新の理論を取り入れ、同時に時系列や非線形回帰、数量化理論I類の変数選択など応用面の充実を期している。

日科技連出版社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 振替 東京7-7309
電話03(5379)1238 FAX03(356)3419 【図書目録送呈】